

//REPORT//

ユネスコスクールオンライン意見交換会

12/22 開催 第5回「持続可能な未来の担い手を育むための探究学習」



2020年度よりユネスコスクール事務局はユネスコスクールオンライン意見交換会を1か月～2か月に1回のペースで実施することとなりました。今回は「持続可能な未来の担い手を育むための探究学習」と題して、対話の場をもつことができました。

■プログラム

開催日時:2020年12月22日(火) 16:00～17:00

時間	内容
16:00	オープニング 趣旨説明
16:05	事例紹介 奈良県立国際高等学校 松本 真紀 氏
16:20	コメント 尚綱学院大学 見上 一幸 氏
16:25	ダイアログ 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。
17:00	クロージング

■ 学校の取組とキークエスト

奈良県立国際高等学校の松本真紀氏より「ESD 実践での生徒の変容と教員の変容…の壁」をテーマに話題提供いただきました。以下、ご発表の概要です。

奈良県立国際高等学校は今年4月に開校した学校で、奈良県下公立では初めてタブレットを活用した授業や世界の言語を習得する授業を実施している。グローバル探究については、週に3単位実施している。地球規模課題のことを考えたり、2年次にはシンガポールステディーツアーを実施したり、開校当初より決定していることもあったが、日々の進め方や内容については私たちが考えなければならず、グローバル探究の主担当している立場から現在も悩みながら進めている状況である。

開校当初、新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言が発令され、スタートが鈍ったため、幸いなことにどのように進めていくべきか考える時間をもつことができた。まずは、「グローバルとは何か」「しあわせってなんだろう」という世界の課題について考える時間をオンライン上でもち、生徒に問いか

けることから始めた。このように授業が徐々に開始されたが、探究学習を実施すること自体初めての教員もいたことから、テーマは学年を通して共通して「ボルネオ島のパーム油の問題と私たちの暮らし」で進めていくことになった。主担当の私が毎回のレジュメを作成し、共有して担当者と一斉に授業を展開した。新型コロナウイルスの影響で、外に出かけていくことができない旭川市旭山動物園や認定NPO 法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンの現地(ボルネオ)スタッフと、オンライン上で意見交換を実施した。ひとつおりのプロセスを生徒・教員ともに体験したのち、ESD を軸にどのようなテーマならば扱えそうかと教員に決めてもらう機会をつくった。そのテーマに沿ってゼミをつくり、高校生たちがその中で学ぶという形式で現在探究学習を進めている。

[みんなで考えたいキークエスチョン]

- ① コロナ禍で出会いの場がオンラインの場でしか実現できないもどかしさがある。できれば体験を通して学んでほしいと思うが、他校ではどのような事例があるのだろうか？
- ② 調べ物をする際、子どもたちは iPad を使用するが、その手段しか選ばなくなってしまう。できれば、本を手にとって読んで調べたり、外に出て実際に話を聞きに行ったりしてほしい。このような広がり意識した学習にどのように導いていくべきか悩んでいる。
- ③ 比較的若い教員が集まっているが、このようなさまざまな考えをもつ教員が集まる中で、教員同士の学びの機会をどのように生み出していか、そこに難しさを感じる。子どもたちと…は、もちろんだが、先生たちとも楽しんで ESD や探究学習を進めていきたい。

■ グローバルな探究学習を進める上で

話題提供を受け、尚絅学院大学 見上一幸教授にコメントをいただきました。

- ・ よいところを發表するという内容はよくあるが、率直に悩みを語らう機会はなかなかないため、考えながら聞かせてもらった。
- ・ 奈良という歴史のある場所に立地しており、さらに「国際」というテーマを扱う、まさに、いま求められているものが詰まっている学校であると感じた。
- ・ 発表では国際的な課題に取り組む姿が共有されたが、生徒たちが感じる地域課題はどのようなものなのか知りたいと思った。
- ・ 地域を知るプロセスを通して、生徒が身近に感じている課題を抽出することができる。これらの課題は教員も共通して持っている課題意識だと思うので、教員を探究学習に巻き込んでいくよい方法になるのではないかと考えた。
- ・ 語学の習得について、世界の課題を知り、課題を解決するために話す言語を選択していくことができるというのではないかと感じた。相手に伝えたいという思いがあれば、何とか理解したい、伝えたいという思いも生じる。アグレッシブになれる。このように精神的な面を培ってあげるのがよいのではないかと考えた。
- ・ 探究学習は、なぜ？どうして？と考える過程がある。その中で論理的思考を働かせる機会になればと感じている。

- ・ コロナをチャンスと捉えていくことも大切である。国境を越えて世界の人たちと簡単にコミュニケーションを取ることができるようになった。GIGA スクール構想も進められている中で、この機会に何ができるかとポジティブな思考を働かせていくことも重要である。

■ 生徒も教員も自分事に…

話題提供と見上教授からのコメントを受け、キークエスチョンを土台とした参加者同士の対話の時間が持たれました。

[キークエスチョンについて]

- 探究学習がどのように受験につながるのかというマインドセットの場合、探究学習に情熱を傾けにくくなってしまいます。探究学習で身に付く視点が受験やその後の人生においても重要であるという共通理解を持ちたい。
- 生徒が身近に捉えている課題を、教員も一緒に考えていくというスタンスを取ると、課題を克服できるのではないかと。
- 新設校ということもあり、地域の方も学校に興味関心をもち、積極的に入ってきてくれる。その特色を生かし広げていきたい。
- 本校(参加者の学校)も 18 年前に設立され、自分自身もここで働き始めて 18 年目になる。その頃は SDGs、探究という言葉がない頃だったが、同じく「グローバルな視点」というキーワードのもと進めてきたという共通点がある。教員の関心のあり方は様々で、私自身も変えなきやと奮闘した経験がある。ただ、一人で頑張っても疲れてしまうモチベーションが保てない。今はその必要はないとあって、その代わりに楽しんでいるということを伝える努力をするようになった。自分が楽しみ、生徒が楽しむ、その空間に人は巻き込まれるのだと思い、今は活動を展開している。
- 探究学習を進めていると、勉強ができるようになるという印象がある。実際に学習の過程で外部の方に会いに行った時に「もっとこの勉強をしないと…」と生徒とよく話す。勉強に向かう意欲が育っているように思う。
- 探究学習を通して、交流する。そのことを通して、自分の暮らしの中では感じることのできない異なる視点と出会うことができ、子どもたちも楽しんでいるように思う。
- 日本の中のグローバル化に目を向けてみてはどうだろう。社会教育施設などへの訪問を通して、日本で暮らす外国人と出会い地域の中でのつながりも見出すことができる。そのことによって、グローバル化をより身近に感じることができるのではないかと。

[その他の質問]

Q: 話題提供を受けた質問だが、生徒の態度や価値観にどのような変化があったか？

一新設の学校で、生徒は 1 年生しかない。入学してきた子どもたちは、初めからどういう理念を持つ学校か理解しているからか、課題に対して、ほぼ 100%の返却率があるなど、積極的な生徒が多い印象を受けている。探究学習の中では、講座に分かれても、「こんな人に会いたい」「実際に見に行き

たい」という意欲を日々感じている。これから、そういうところを育てていきたいなど考えている。

Q: 話題提供の中で、ホセ・ムヒカ氏のスピーチを通して、「幸せ」や「幸福」について考えてもらう課題を出したとあったが、生徒からどう回答を得ることができたか。幸福に関する対話の重要性は現在ユネスコでも重要なテーマとして捉えられているため関心がある。

- 「家族と居ること」「つながること」「『普通』であること」など、教員の予想していなかった反応を返してくる生徒が多かった。また、ホセ・ムヒカ氏のスピーチから、自分の生活はモノに溢れていることに気が付いたという反応もあり、自分事として捉えている印象を受けた。
- このように、自分たちの視点で捉えられる工夫をしている。例えば、パーム油についても急に扱うのではなく、例えばお菓子の空箱を集めてきてという呼びかけから始まり、どの程度自分の生活にパーム油が使用されているのかという理解をしてもらってから学習をスタートさせた。



〔意見交換終了後の集合写真〕

※次回は 2021 年 1 月 26 日(火)17:30~18:30(予定)に“ファシリテート”をテーマに対話の場をもちます。テーマやお申込み方法などの詳細は、後日[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「イベントのお知らせ」「みんなの掲示板」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#)にも掲載しますので、お見逃しなく！